

私たちの「信仰告白」

[マタイによる福音書 16章 13～28節]

イエスは、フィリポ・カイサリア地方に行ったとき、弟子たちに、「人々は、人の子のことを何者だと言っているか」とお尋ねになった。弟子たちは言った。『『洗礼者ヨハネだ』と言う人も、『エリヤだ』と言う人もいます。ほかに、『エレミヤだ』とか、『預言者の一人だ』と言う人もいます。』イエスが言われた。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」シモン・ペトロが、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えた。すると、イエスはお答えになった。「シモン・バルヨナ、あなたは幸いだ。あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ。わたしも言うておく。あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。陰府の力もこれに対抗できない。わたしはあなたに天の国の鍵を授ける。あなたが地上でつなぐことは、天上でもつながれる。あなたが地上で解くことは、天上でも解かれる。」それから、イエスは、御自分がメシアであることをだれにも話さないように、と弟子たちに命じられた。このときから、イエスは、御自分が必ずエルサレムに行つて、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受けて殺され、三日目に復活することになっている、と弟子たちに打ち明け始められた。すると、ペトロはイエスをわきへお連れして、いさめ始めた。「主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません。」イエスは振り向いてペトロに言われた。「サタン、引き下がれ。あなたはわたしの邪魔をする者。神のことを思わず、人間のことを思っている。」それから、弟子たちに言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを得る。人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか。自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。」

[1] 幸いだ

「シモン・ペトロが、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えた。すると、イエスはお答えになった。「シモン・バルヨナ、あなたは幸いだ。あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ。」

教会を教会たらしめていること、それは、イエスこそ「救い主」「主」と告白する「信仰告白」にあります。そして、ここでその信仰の告白をしたシモン・バルヨナに対してイエス様は「あなたはペトロ＝岩」だと名付けました。「岩」ですから、堅固で確かなものです。教会はこの告白を共有する共同体です。しかし今、「岩」だと

言いましたけれども、私たちは自分の信仰が「岩」のようだと言えるでしょうか？ とても言えないのではないのでしょうか？ でも、実はそれでいいのだと思います。信仰とは、自分の告白の堅固さ、確かさに立つことではなく、「**あなたにこのことを現わされたのは天の父なのだ**」という、神様が私たちの中に起こして下さるみわざを信じることなのですね。だから本当に「**幸い**」なのです。もし信仰が「個人的な立派さ」であるなら、それはただ個人に帰する事柄であって共有は出来ませんが、**信仰(告白)は、神様のわざ**でありますから、皆で共有し、皆で讃美を捧げることが出来るのです。私たちの今朝の礼拝も、私たちに信仰を与えて下さった神様を共に讃美し、感謝し、またその神様に立ち帰るために集まっているのですね。

[2] 自己中心のわたしの中に聖霊が

「**イエスは主なり**」。これが最も簡潔な信仰告白です。けれどもこれはまた、ある意味、**自分の思いを捨てること**でもあります。「あなたこそメシア、生ける神の子です」と言い切った**シモン・ペトロ**でしたけれども、そしてそれは神様の恵み以外の何ものでもありませんでしたけれども、すぐそのあとで彼はイエス様から「あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている。サタン、引き下がれ」と言われています。…私たちはシモン・ペトロのことを笑えるのでしょうか？ 「あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている」と言われてしまうのは、私たちも全くそうなのではないのでしょうか？ 私たちは「**イエスは主なり**」と言う時も、イエス様をまるで**アイドル**のように、**ひたすら自分に仕えてくれる神様像**にしてしまうことがあるのです。そして自分のイメージに合わなくなってしまうと、この時のシモン・ペトロのように、イエス様を自分の方に引き寄せ、「主よ、とんでもないことです」と、「**自分**」の方がイエス様の上に立ってしまうのです。

それは、結局イエス様を信じているよりは、「**自分**」を信じているのです。このイエス様とペトロの会話は、信仰(告白)の中でさえ**自己中心に陥ってしまう私たちの現実**もまた見せてくれているのです。そこから解放されない私たちだと言わなければならないと思います。けれども、そのような私たちの心の中心に、神様は**聖霊**を注いで下さって、「**私の神様・主はこのお方です！**」と告白させて下さるのです。それはまるで神様が、力づくで私たちがサタンの力に引きずられていくことを阻止するかのよう、私たちの口に「**イエスこそ私の主です**」という告白を、讃美を、授けて下さっているのだと、そう思えてなりません。

しかし、この告白は、バプテスマの時一回だけのものなのか。そうではありません。あの**マルチン・ルター**が、「主が、汝ら悔い改めよと言われた時、それは信

仰者の全生涯が悔い改めであることを主はお望みになったのだ」と語った宗教改革の発端になった有名な言葉がありますけれども、それは今も礼拝の度ごとに起こることですし、更に言うならば一日の内で何度も何度も、「私ではなく主」を選び直すことを私たちは生活の只中で、様々な選択の場面に立たされる時、祈りを持ってしていかなければならないことがあるのではないのでしょうか。

[3] わたしが先にいっているからついて来なさい

そして、今日の箇所を読んでいて改めて驚いたのですが、この信仰の告白というものは、私たちが今ここで神の国の命＝永遠の生命に生きることと直結しているのだということです。24節からお読みします。「それから、弟子たちに言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを得る。人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があるのか。自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。」

「自分の十字架を背負う」ということは、何か過酷な運命を背負うというように捉えがちかもしれませんが、私は、イエス様の十字架を度外視して考えてはいけないのではないかと思います。私たちの人生は、どうしたって人に代わってもらえない「私だけの重荷」というものがあると思います。その荷を下ろせたらどんなに楽だろうかと思います。けれどもここではイエス様は、「(あなた固有の)自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」とおっしゃっています。「私に従いなさい」と言うのは、「私が先に行っているから、私の足跡について来なさい」ということではないのでしょうか？ 私はそう思います。主は私たちの弱さを思いやることが出来ない方ではありません。私たちはどこまでも弱く、また自己中心で罪深い者でしかありませんけれども、だからこそ、主は十字架で贖いを成し遂げて下さったのですよね、私たちを愛して。そして主イエス様は、たとい「全世界を手に入れても」、あなたという一人の命が失われたら何の価値もないではないか、そのあなたの生命のために、永遠の生命のためにわたしは来たのだよ、とおっしゃっているのではないのでしょうか。私たちは決して孤独ではありません。この主が共に生きて下さいます。ですから、あなたは自分にこだわることを捨て、色々な「生きる重荷」を抱えているかもしれないけれども、そのままで私についていらっしやい、そのゴールは永遠の生命なのだからと招いて下さっているのだと思います。「信仰告白」をしながらです。イエス様は、信仰告白は「天の門」を開く「鍵」と言っているのですね。

[4] 「信仰告白」を生きることは永遠の生命を生きること

NHKのBS放送で、最近私は感動して見た短い番組(『**駅ピアノ**』)がありました。それはチェコのプラハの、古くからのマサリク駅の中に一台のピアノが置かれていて、誰でも自由に弾いて良いというものなのですね。そこにカメラが置かれていて、映している。色々な人たちが入れ替わり立ち代わりピアノの椅子に腰を下ろし、ピアノを弾き始めます。演奏後にはちょっとしたインタビューの一言も入っているんです。そのマサリク駅で最後に紹介された男の人(40才位か)の演奏は、ピアノを弾いて歌も歌っているのですね。それは、彼が作った歌なのですから、少しだけ歌詞が出ていました。こんな歌詞だったと思います。

—「私は神様を信頼して、穏やかに正直に生きていきたい。自分を打ち負かそうとする誘惑に負けないで生きていこう。そうすれば新しい人生が始まる」と。そんなに上手でもないのですけれども、彼の心からの祈りの歌なのだなあと感じました。音楽というのは、説教よりもダイレクトに心の深い所に届くと言うことがありますよね。…どうも彼は若い頃に傷害事件で服役したことがあったらしく、その後**刑務所の中の教会**で歌うことが好きになって、自分でも歌を作るようになった。駅の中でも自分で自分を勇気づけるように、また皆にも聞いてほしいという気持ちで歌っているのですね。或る時、駅でその歌をたまたま聞いた女性がとても心を打たれ、彼に話しかけ、そこから交際が始まり、今は結婚しているとテロップに出ていました。そういう出会いってあるんだなと思いました。その彼女の姿も映っていました。「いままであまりいいことがない人生だったけれど、今、この愛に出会えてとても幸せさ」と語っていた顔はとても嬉しそうです。

私はこの歌は、彼の「**信仰告白**」だなと思いました。歌に込められた素朴な、しかし子供のように純粋な神様への思い、その「**信仰告白**」が彼を支えているのですね。神様が彼を勇気づけ、**信仰告白**を通して証しが、人の心に届いたのですね。その彼の心に共鳴する人との出会いがあり、正に新しい命、幸いを生きている。…私たちもそうなのではないでしょうか。「**信仰告白**」が上からやって来ます。それが私たち一人ひとりを支え、生かしている。他者にもその祝福が注がれていく。「**信仰告白**」は皆に天の窓を開けるのです。「こんな私にもイエス様は出会って下さった」ということ。それは何という恵みでしょうか！この恵みを与えたいがために、主は十字架でその愛を注ぎ切って下さったのです。それは「全世界」を手にするよりも尊い宝物です。「**信仰告白**」を生きることは、永遠の生命を生きることです。

主は言われます「あなたは幸いだ。このことを現わしたのは、天の父なのだ」と。お祈り致します。